平成　29　年度　　第2次総合計画 施策マネジメントシート

作成日 平成 29 年 7 月 19 日
更新日 平成 年 月 日

（平成　28　年度の実績評価）

総合計画体系	政策No.	4	政策名	心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成	施策主管課	教育委員会　生涯学習課
	施策No.	19	施策名	生涯学習の振興	施策主管課長名	名執　彰一
施策関連課名				市立図書館、市立美術館		

1　施策の目的

① 対象（誰、何を対象としているのか）＊人や自然資源等	② 意図（この施策によって対象をどう変えるのか）
市民 公民館、生涯学習センター、図書館、美術館	学習テーマを持ち、誰でも学べる。 学習の成果を活用することができる。 スポーツ・レクリエーション活動が習慣化され、健康増進に繋がる。 利用環境やサービスの充実により、学習やスポーツ施設の利用者が増加する。
対象の大きさを表す指標　⇒　2－①　対象指標	意図の達成度を表す指標　⇒　2－②　まちづくり指標

2　指標の推移、指標設定の根拠等

指標区分、指標名			単位	数値区分	基本計画現況値	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
① 対象指標	ア	市人口	人	見込み値		72,644	72,322	72,001	71,680	71,359	71,038
				実績値	72,963	72,715	72,305	72,018			
	イ	生涯学習センター等の施設数	箇所	見込み値		3	3	3	3	3	3
				実績値	3	3	3	3			
	ウ			見込み値							
				実績値							
② まちづくり指標	A	生涯学習を実践していると回答した市民の割合	%	目標値		50.0	29.0	31.0	33.0	35.0	37.0
				実績値	27.8	33.1	29.0	31.2			
	B	図書館レファレンスサービス（調査相談）件数	件	目標値		未設定	2,060	2,120	2,180	2,240	2,300
				実績値	1,961	3,939	5,488	5,906			
	C	美術館ワークショップの参加者数	人	目標値		未設定	1,300	1,325	1,350	1,375	1,400
				実績値	1,269	2,543	1,571	1,999			
	D	ｽﾎﾟｰﾂ･ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ活動を習慣化していると回答した市民の割合	%	目標値		37.2	37.0	39.0	41.0	43.0	45.0
				実績値	35.7	37.4	34.3	33.0			
	E			目標値							
				実績値							

まちづくり指標設定の考え方 【まちづくり指標の測定規格（アンケートか、統計か、数式など）】	A：生涯学習活動の成果を示す。 【市民アンケートの『趣味や娯楽なども含めて、生涯学習活動を行っていますか』において、「行っている」「どちらかというと行っている」と回答した人の割合】 B：図書館の利用促進活動の効果を示す。 【レファレンスサービスの回答件数】 C：美術館の利用促進活動の効果を示す。 【美術館ワークショップの参加者数】 D：スポーツ普及活動の成果を示す。 【市民アンケートの『習慣的にスポーツやレクリエーション活動を行っていますか』において、「行っている」「どちらかというと行っている」と回答した人の割合】
目標値の設定の根拠（前提条件や考え方等）	A：現行値から5年間で10%増加を目標に設定 B：図書館利用やサービスの拡大を目指し、5年間で約400件（年間約3%）の増加を目標に設定 C：5年間で約200人の増加を目指す D：現行値から5年間で約10%増加を目標とした数値を設定

3　予算等の推移

※当初予算額。骨格予算の年度は6月補正後

区分		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
関連事業本数		83	78	78	61	58		
関連事業予算額（単位：千円）		675,151	815,369	447,605	756,018	804,139		
（予算額の内訳）	国庫支出金	0	83,300	0	0	0		
	県支出金	0	0	0	0	0		
	地方債	222,500	272,400	17,100	256,500	345,500		
	その他	53,230	16,210	29,514	29,839	27,299		
	一般財源	399,421	443,459	400,991	469,679	431,340		

4 評価結果（施策の有効性評価）

① 目標達成度評価（目標値と実績値との比較）

- ☐ 目標値より高い実績値だった
- ☑ 目標値どおりの実績値だった
- ☐ 目標値より低い実績値だった

※左記の理由

指標Aの生涯学習を実践している市民の割合は目標値どおり、指標Bの図書館レファレンスサービス件数は職員による利用者への積極的な対応、指標Cの美術館ワークショップ参加人数は魅力的なワークショップの開催により目標値を大幅に上回ったが、指標Dのスポーツレクリエーションを習慣化している市民の割合は目標値を下回った。

② 時系列比較（過去3ヶ年程度の比較）

- ☐ 成果がかなり向上した
- ☑ 成果がどちらかと言えば向上した
- ☐ 成果はほとんど変わらない（横ばい状態）
- ☐ 成果がどちらかと言えば低下した
- ☐ 成果がかなり低下した

※左記の理由

指標Aの生涯学習を実践していると回答した市民の割合は、平成26年度に33.1%であったものが31.2%、指標Dのスポーツレクリエーションを習慣化していると回答した市民の割合は平成26年度の37.4%から33%とやや低下している。指標Bの図書館レファレンスについては、平成26年度の実績が3,939件だったものが年々増加し、平成28年度の実績は5,906件となった。指標Cの美術館ワークショップ参加者数は平成28年度の実績が1,999人と高い実績であり年々増加している。（平成26年度は、夏祭りの参加者が含まれている）

③ 他自治体との成果実績値の比較

- ☐ かなり高い成果水準である
- ☐ どちらかと言えば高い成果水準である
- ☑ ほぼ同水準である
- ☐ どちらかと言えば低い成果水準である
- ☐ かなり低い成果水準である

※左記の理由

指標Aについては、県内に同じアンケートはないが、山梨市での類似のアンケート（H27）では「あなたはこの1年くらいに「生涯学習活動」をしたことがありますか？」という設問に対し、「したことがある」が44%であったのに対し、本市の「実践している」が31.2%であった。指標Bについては、県内の市立図書館のレファレンス件数（H27）の平均値4,735件と比較すると、5,488件（H28：5,906件）と上回っている。指標Cについては、県内の類似比較施設は無いが、近県の施設では同水準である。指標Dは類似の市民アンケートを実施している甲府市と比較すると、甲府市40%（H25スポーツ推進計画）に対し本市の5年間の数値を見るとやや低い水準である。

④ 住民の期待する成果水準との比較

- ☐ かなり高い成果水準である
- ☐ どちらかと言えば高い成果水準である
- ☐ ほぼ同水準である
- ☑ どちらかと言えば低い成果水準である
- ☐ かなり低い成果水準である

※左記の理由

「生涯学習の推進、文化・スポーツの振興」についての期待度は43.6%であるが、満足度は32.0%となっている。
期待度に対し満足度はやや下回っているが、生涯学習講座、健康スポーツ教室、ファミリーバドミントン教室、スキー教室等の参加者に対するアンケートや市民の声を聞くと満足度が高い。

5 まとめ（課題の抽出とその解決に向けた取り組み）

施策の課題（現状の問題点）	課題を解決し、施策の実現を図るための取り組み方針	
	課題解決の方向性	具体的な改善策・取り組み内容
・（仮称）白根生涯学習センター及び桃源文化会館の新設・改修に伴う使用料金の設定 ・公民館の位置づけと公民館活動及び社会教育団体への補助金	・新設、改修に伴う新たな施設の使用料金の設定にあたり、合併前の旧町村時代から見直してこなかった社会教育施設の使用料金の基準を作成し、統一した考えの下料金区分を見直し、市民にとって分かりやすく利用しやすい施設にしていく。 ・本市にとっての公民館及び公民館活動のあり方を整理し、社会教育団体への補助金の基準を作成していく。	・社会教育委員の会議に社会教育施設の使用料金の考え方を諮問し、社会教育委員の会議の意見に基づき、条例改正を行っていく。 ・社会教育委員の会議に公民館及び公民館活動のあり方並びに社会教育団体への補助金について諮問し、社会教育委員の会議の意見に基づき見直していく。
白根桃源図書館建設及び芦安分館の改修に伴う施設整備 ・図書館活動・事業の周知	・市民が利用しやすい図書館環境整備及び図書館サービスの充実を図る。 ・ホームページや広報の他、商工会やJAとも連携を図り、事業のPRをする。	・平成29年度に白根桃源図書館新設工事及び芦安分館の改修工事を実施し、市民が利用しやすい環境を整える。 ・中央図書館としての機能の充実を図り、効果的に事業のPRをし、図書館利用の促進を図る。
・市民活動の発表の場の整備。 ・体験型創作教室の整備。	・市民が自主的に活動でき、自主作品を展示発表できる環境を整備する。 ・木版画を中心とした体験型教室を整備し、教育普及活動の促進を図る。	・平成29・30年度、本市の芸術文化の拠点施設整備事業として美術館リニューアル事業を実施する。 ・市民が活動発表できるギャラリー施設の整備をする。 ・創作活動を行う施設の整備をし、木版画を中心とした教室を各年代毎に年間を通じたプログラムにより実施する。また、体験型の観光ツアーへの提供も行っていく。